

オプス・デイ属人区創立者
聖ホセマリア・エスクリバー司祭
記念ミサ



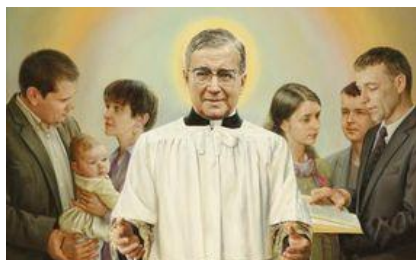
聖ホセマリア・エスクリバーについて



聖ホセマリア・エスクリバー (Josemaría Escrivá)は、1902年1月9日、スペインのバルバストロで生まれ、1925年3月28日、サラゴサで司祭に叙階され、1928年10月2日、神の靈感を受けてオプス・デイを創立しました。1975年6月26日、ローマで帰天。執務室を見守る聖母の御絵を深い愛の眼差しで見つめた直後のことでした。

当時、オプス・デイはすでに五大大陸に広がっており、聖ホセマリア・エスクリバーが常に教え実行したように、教皇ならびに司教と心をひとつにして教会に仕える80カ国6万人以上のメンバーを数えていました。

聖ヨハネ・パウロ2世教皇は、2002年10月6日、オプス・デイ創立者をローマで列聖されました。聖人の記念日は6月26日です。聖人の遺体は、平和の聖マリア教会 (viale Bruno Buozzi 75, Roma)に安置されています。



開祭

入祭の歌 ラウダ・エルサレム



Lau- da Je- rú- sa- lem Dó- mi- num,
ラウ ダ イエル サレム ド ミ ヌム
ほめよ、エルサレムよ、主 を。



Lau- da De- um tu-um Si- on.
ラウ ダ デ ウム ト ウ ウ ム シ オ ン
ほめよ あなたの神を、シオンよ。



Ho- sán- na, Ho- sán- na,
ホ ザン ナ ホ ザン ナ



Ho- sán- na Fí- li- o Da- vid.
ホ ザン ナ イ リ オ ダ ヴ ィ ド
ホザンナ、ダヴィドの子に。

あいさつと回心への招き

司式者 父と子と聖霊のみ名によって。

会衆 アーメン。

司式者 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが皆さんとともに。

会衆 またあなたとともに。

司式者 皆さん、聖なる祭儀を行う前に、わたしたちの罪を認め、ゆるしを願いましょう。(短い沈黙) 全能の神と、

会衆 兄弟姉妹の皆さんに告白します。わたしは思い、ことば、行い、怠りによって、たびたび罪を犯しました。聖母マリア、すべての天使と聖人、そして兄弟姉妹の皆さん、罪深いわたしのために神に祈ってください。

司式者 全能の神、いつくしみ深い父がわたしたちの罪をゆるし、永遠のいのちに導いてくださいますように。

会衆 アーメン。

いつくしみの賛歌 (キリエ)

Kyrie XVI参照
詞・曲 CBCJ

先唱 会衆

主よ、いつくしみを。 主よ、いつくしみをわたしたちに。

先唱 会衆

キリスト、いつくしみを。 キリスト いつくしみをわたしたちに。

先唱 会衆

主よ、いつくしみを。 主よ、いつくしみをわたしたちに。

おられる主よ、 いくしみをわたしたちに。

ただひとりせいなるかた、 すべてを越えるゆいいつの主、

イエス・キリストよ、 せい霊とともにちちなるかみの

えいごうのうちーに。 アーメン。

集会祈願

司式者 祈りましょう。神よ、あなたは、すべての人が聖性と使徒職に召されていることを告げ知らせるために、司祭聖ホセマリアをお選びになりました。聖人の取次ぎと模範に支えられたわたしたちが、日々の働きを通して御子イエスとひとつになり、燃えるような愛をもってあがないのわざに協力することができますように。聖霊による一致のうちに、あなたとともに神であり、世々としえに生き、治められる御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。

O God, who raised up your priest Saint Josemaría the Chudrch to proclaim the universal call to holiness and the apostolate, gran that by his intercession and example we may, through our daily work, be formed in the likeness of Jesus your Son and serve the work of redemption with burnig love. We ask this through our Lord Jesus Christ your Son, who lives and reigns with you and the Holy Spirit, one God, for ever and ever. Amen.

会衆 アーメン。

ことばの典礼

第一朗読 創世記(2・4b—9, 15)

主なる神が地と天を造られたとき、地上にはまだ野の木も、野の草も生えていなかった。主なる神が地上に雨をお送りにならなかったからである。また土を耕す人もいなかった。しかし、水が地下から湧き出て、土の面をすべて潤した。主なる神は、土の塵で人を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。

主なる神は、東の方のエデンに園を設け、自ら形づくった人をそこに置かれた。主なる神は、見るからに好ましく、食べるに良いものをもたらすあらゆる木を地に生えいさせ、また園の中央には、命の木と善悪の知識の木を生えいさせられた。

主なる神は人を連れて来て、エデンの園に住まわせ、人がそこを耕し、守るようにされた。

At the time when the Lord God made the earth and the heavens —while as yet there was no field shrub on earth and no grass of the field had sprouted, for the Lord God had sent no rain upon the earth and there was no man to till the soil, but a stream was welling up out of the earth and was watering all the surface of the ground— the Lord God formed man out of the clay of the ground and blew into his nostrils the breath of life, and so man became a living being.

Then the Lord God planted a garden in Eden, in the east, and he placed there the man whom he had formed. Out of the ground the Lord God made various trees grow that were delightful to look at and good for food, with the tree of life in the middle of the garden and the tree of the knowledge of good and evil.

The Lord God then took the man and settled him in the garden of Eden, to cultivate and care for it.

朗読者 神のみことば。

会衆 神に感謝。

答唱詩編 主を仰ぎ見て(典礼聖歌 128)

♩ = 56 くらい



主 を あ お ぎ み て — ひ
か り を う け よ う 主 が お と ず れ
る ひ と の か お は か が や く —

1. 主をたたえよう
あけくれ賛美をくちにして
主はわたしたちの口のほこり
苦しむときの心のよろこび
2. 心を合わせて主をあがめ
ともにその名をたたえよう
主はわたしたちの祈りに心をとめ
すべての恐れを遠ざけてくださる

第二朗読 使徒パウロのローマの教会への手紙(8・14—17)

兄弟の皆さん。神の霊によって導かれる者は皆、神の子なのです。あなたがたは、人を奴隷として再び恐れに陥れる霊ではなく、神の子とする霊を受けたのです。この霊によってわたしたちは、「アッバ、父よ」と呼ぶのです。

この霊こそは、わたしたちが神の子供であることを、わたしたちの霊と一緒に証してくださいます。もし子供であれば、相続人でもあります。神の相続人、しかもキリストと共同の相続人です。キリストと共に苦しむなら、共にその栄光をも受けるからです。

Brothers and sisters: Those who are led by the Spirit of God are sons of God. For you did not receive a spirit of slavery to fall back into fear, but you received a Spirit of adoption, through whom we cry, “Abba, Father!”

The Spirit himself bears witness with our spirit that we are children of God, and if children, then heirs, heirs of God and joint heirs with Christ, if only we suffer with him so that we may also be glorified with him.

朗読者 神のみことば。

会衆 神に感謝。

アレルヤ唱 わたしのあとに 従いなさい



アレルーヤ アレルーヤ わたしのあとに 従いなさい
人を捕らえる漁師に しょう アレルーヤ アレルーヤ

福音朗読 ルカによる福音(5・1—11)

司式者 主は皆さんとともに。

会衆 またあなたとともに。

司式者 ルカによる福音。

会衆 主に栄光。

イエスがゲネサレト湖畔に立っておられると、神の言葉を聞こうとして、群衆がその周りに押し寄せて来た。イエスは、二そうの舟が岸にあるのを

御覧になった。漁師たちは、舟から上がって網を洗っていた。そこでイエスは、そのうちの一そうであるシモンの持ち舟に乗り、岸から少し漕ぎ出すようにお頼みになった。そして、腰を下ろして舟から群衆に教え始められた。

話し終わったとき、シモンに、「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をなさい」と言われた。シモンは、「先生、わたしたちは、夜通し苦勞しましたが、何もとれませんでした。しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」と答えた。そして、漁師たちがそのとおりにすると、おびたしい魚がかかり、網が破れそうになった。そこで、もう一そうの舟にいる仲間に合図して、来て手を貸してくれるように頼んだ。彼らは来て、二そうの舟を魚でいっぱいにしたので、舟は沈みそうになった。

これを見たシモン・ペトロは、イエスの足もとにひれ伏して、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」と言った。とれた魚にシモンも一緒にいた者も皆驚いたからである。シモンの仲間、ゼベダイの子のヤコブもヨハネも同様だった。すると、イエスはシモンに言われた。「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。」そこで、彼らは舟を陸に引き上げ、すべてを捨ててイエスに従った。

While the crowd was pressing in on Jesus and listening to the word of God, he was standing by the Lake of Gennesaret. He saw two boats there alongside the lake; the fishermen had disembarked and were washing their nets. Getting into one of the boats, the one belonging to Simon, he asked him to put out a short distance from the shore. Then he sat down and taught the crowds from the boat.

After he had finished speaking, he said to Simon, "Put out into deep water and lower your nets for a catch." Simon said in reply, "Master, we have worked hard all night and have caught nothing, but at your command I will lower the nets." When they had done this, they caught a great number of fish and their nets were tearing. They signaled to their partners in the other boat to come to help them. They came and filled both boats so that the boats were in danger of sinking.

When Simon Peter saw this, he fell at the knees of Jesus and said,

“Depart from me, Lord, for I am a sinful man.” For astonishment at the catch of fish they had made seized him and all those with him, and likewise James and John, the sons of Zebedee, who were partners of Simon. Jesus said to Simon, “Do not be afraid; from now on you will be catching men.” When they brought their boats to the shore, they left everything and followed him.

司式者 主のみことば。

会衆 キリストに賛美。

説教

信仰宣言 ニケア・コンスタンチノーブル信条

わたしは信じます。唯一の神、全能の父、天と地、見えるもの、見えな
いもの、すべてのものの造り主を。

わたしは信じます。唯一の主イエス・キリストを。

主は神のひとり子、すべてに先立って父より生まれ、神よりの神、光よ
りの光、まことの神よりのまことの神、造られることなく生まれ、父と一体。
すべては主によって造られました。主は、わたしたち人類のため、わたし
たちの救いのために天からくだり、聖霊によって、おとめマリアよりからだ
を受け、人となりました。(下線部で礼をする)

ポンティオ・ピラトのもとで、わたしたちのために十字架につけられ、苦
しみを受け、葬られ、聖書にあるとおり三日目に復活し、天に昇り、父の
右の座に着いておられます。主は、生者と死者を裁くために栄光のうちに
再び来られます。その国は終わることがありません。

わたしは信じます。主であり、いのちの与え主である聖霊を。聖霊は、
父と子から出て、父と子とともに礼拝され、栄光を受け、また預言者をと
おして語られました。わたしは、聖なる、普遍の、使徒的、唯一の教会を信
じます。罪のゆるしをもたらす唯一の洗礼を認め、死者の復活と来世の
いのちを待ち望みます。アーメン。

共同祈願

司式者 皆さん、聖ホセマリア・エスクリバーの祝日にあたり、父である神が豊かな恵みを注いでくださるように心を合わせて祈りましょう。

1. 聖なる教会のために祈りましょう。教会が望むように教会に仕えることを望んでいた聖ホセマリアにならい、わたしたちもそれぞれの立場で、教会に役立つ者となりますように。

会衆 ▲神よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。(以下同じ)

2. 教会を導く教皇フランシスコのために祈りましょう。「地上の甘美なるキリスト」である教皇様が、聖霊に導かれ、キリストの光を伝え続けることができますように。 ▲
3. 教会のすべての司教と司祭のために祈りましょう。聖ホセマリアが、あらゆる状況においても司祭として働き続けたように、すべての司教と司祭が神の国を広める使命に献身できますように。 ▲
4. オプス・デイ属人区と、属人区長フェルナンド・オカリス神父のために祈りましょう。オプス・デイ属人区が、創立者の精神に忠実を保ち、社会に福音をのべ伝える良き道具となることができるよう。 ▲
5. 戦争やテロ、また予期せぬ事故や災害などによって苦しむ人々のために祈りましょう。様々な困難の中にいる人々が、霊的、物的に必要な助けを受け、神の恵みによって強められますように。 ▲
6. わたしたちとその家族のために祈りましょう。一人ひとりが聖ホセマリアの精神に従い、日常生活のあらゆる瞬間と状況を、主を愛する機会としていくことができますように。 ▲

司式者 神よ、御身は聖ホセマリア・エスクリバーを通して、専門職とキリ

スト者としての日々の務めを果たしつつ聖性を求める道であるオプス・デイを創立していただきました。聖人の取り次ぎによって祈るわたしたちが、神の御旨をいつも果たしていくことができるよう、恵みを注いでください。わたしたちの主イエス・キリストによって。
会衆 アーメン。

奉納

奉納の歌 主はわれらの牧者(典礼聖歌 123)

♩ = 72 くらい



主 は わ れ ら の ぼ く ———— しゃ



わ た し は と ぼ し い こ と が な い

1. 神はわたしを緑のまきばに伏させ いこいの水辺にともなわれる
神はわたしを生き返らせ いつくしみによって正しい道にみちびかれる
2. たとえ死の陰の谷を歩んでも わたしはわざわいを恐れない
あなたがわたしとともにおられ そのむちとつえはわたしをまもる
3. あなたは はむかう者の前で わたしのために会食をととのえ
わたしの頭に油を注ぎ わたしの杯を満たされる
4. 神の恵みといつくしみに 生涯伴われ
わたしはとこしえに 神の家に生きる

奉納祈願

司式者 皆さん、ともにささげるこのいけにえを、全能の父である神が受け入れてくださるよう祈りましょう。

会衆 神の栄光と賛美のため、またわたしたちと全教会のために、あなたの手を通しておささげするいけにえを、神が受け入れてくださいますように。

司式者 聖なる父よ、聖ホセマリアを記念してささげるこの供えものを受け入れてください。秘跡によって再現されるキリストの十字架のいけにえによって、わたしたちの行いすべてが聖なるものとなりますように。わたしたちの主イエス・キリストによって。

Holy Father, accept these gifts that we offer in memory of Saint Josemaría, so that, through the sacrifice offered by Christ on the altar of the Cross and made present here in this sacrament, may you graciously sanctify all that we do. We ask this through Christ our Lord. Amen.

会衆 アーメン。

奉献文

司式者 主は皆さんとともに。

会衆 またあなたとともに。

司式者 心を込めて、

会衆 神を仰ぎ、

司式者 賛美と感謝をささげましょう。

会衆 それはとうとい大切な務めです。

司式者 聖なる父、全能永遠の神、主キリストによっていつもあなたをたたえ、心から感謝をささげます。あなたは聖ホセマリアの信仰の模範によって、わたしたちを励まし、その教えを通して導き、取り次

ぎによって神の民を守られます。あなたをたたえる天使と聖人の歌に声を合わせ、わたしたちも終わりなく感謝の賛歌を歌います。

感謝の賛歌 サンクトゥス

Kyriale IX参照
詞・曲 CBCJ



せいなる、せいなる、 せいなる一かみ、 すべてを



おさめる一かみなる主。主のえいごうはてん地に満つ。



てんにはかみにホザーンナ。主の名によって来られるかたにさーんび。



てんにはかみにホザーンナ。

第3 奉献文

司式者　まことに聖なる父よ、造られたものはすべて、あなたをほめたたえています。御子わたしたちの主イエス・キリストを通して、聖霊の力強い働きにより、すべてにいのちを与え、聖なるものとし、たえず人々をあなたの民としてお集めになるからです。日の昇る所から日の沈む所まで、あなたに清いささげものが供えられるために。

聖なる父よ、あなたにささげるこの供えものを、いま、聖霊によって聖なるものとしてください。御子わたしたちの主イエス・キリストの御からだと御血になりますように。

キリストの言葉に従って、いま、わたしたちはこの神秘を祝います。主イエスは渡される夜、パンを取り、あなたに賛美と感謝をささげ、裂いて、弟子に与えて仰せになりました。

「皆、これを取って食べなさい。これはあなたがたのために渡されるわたしのからだである。」

食事のあとに、同じように杯を取り、あなたに賛美と感謝をささげ、弟子に与えて仰せになりました。

「皆、これを受けて飲みなさい。これはわたしの血の杯。あなたがたと多くの人のために流されて、罪のゆるしとなる新しい永遠の契約の血である。これをわたしの記念として行ないなさい。」

司式者　信仰の神秘。

会衆　主よ、あなたの死を告げしらせ、復活をほめたたえます。再び来られるときまで。

司式者　聖なる父よ、わたしたちはいま、御子キリストの救いをもたらす受難、復活、昇天を記念し、その再臨を待ち望み、いのちに満ちたこの聖なるいけにえを感謝してささげます。あなたの教会のささげものを顧み、まことの和解のいけにえとして認め、受け入れてください。御子キリストの御からだと御血によってわたしたちが養われ、聖霊に満たされて、キリストのう

ちに、一つのからだ、一つの心となりますように。

聖霊によってわたしたちを、あなたにささげられた永遠の供えものとしてください。選ばれた人々、神の母おとめマリアと聖ヨセフ、使徒と殉教者、聖ホセマリア、すべての聖人とともに神の国を継ぎ、その取り次ぎによってたえず助けられますように。

わたしたちの罪のゆるしとなるこのいけにえが、全世界の平和と救いのためになりますように。地上を旅するあなたの教会、教皇フランシスコ、わたしたちの司教〇〇〇〇、わたしたちの属人区長フェルナンド・オカリス、司教団とすべての奉仕者を導き、あなたの民となったすべての人の信仰と愛を強めてください。

あなたがここにお集めになったこの家族の願いを聞き入れてください。いつくしみ深い父よ、あなたの子がどこにいても、すべてあなたのもとに呼び寄せてください。

亡くなったわたしたちの兄弟姉妹、また、み旨にしたがって生活し、いまはこの世を去ったすべての人を、あなたの国に受け入れてください。わたしたちもいつかその国で、いつまでもともにあなたの栄光にあずかり、喜びに満たされますように。

わたしたちの主イエス・キリストを通して、あなたはすべてのよいものを世にお与えになります。

司式者　キリストによって、キリストとともに、キリストのうちに、聖霊の交わりの中で、全能の神、父であるあなたに、すべての誉れと栄光は、世々に至るまで。

会衆　アーメン。

交わりの儀

- 司式者 主の教えを守り、みことばに従い、つつしんで主の祈りを唱えましょう。
- 会衆 天におられるわたしたちの父よ、み名が聖とされますように。み国が来ますように。みこころが天に行われるとおりに地にも行われますように。わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。わたしたちの罪をおゆるしください。わたしたちも人をゆるします。わたしたちを誘惑におちいらせず、悪からお救いください。
- 司式者 いつくしみ深い父よ、すべての悪からわたしたちを救い、世界に平和をお与えください。あなたのあわれみに支えられて、罪から解放され、すべての困難にうち勝つことができますように。わたしたちの希望、救い主イエス・キリストが来られるのを待ち望んでいます。
- 会衆 国と力と栄光は、永遠にあなたのもの。
- 司式者 主イエス・キリスト、あなたは使徒に仰せになりました。「わたしは平和を残し、わたしの平和をあなたがたに与える。」主よ、わたしたちの罪ではなく、教会の信仰を顧み、おことばの通り、教会に平和と一致をお与えください。
あなたはまことのいのち、すべてを導かれる神、世々とこしえに。
- 会衆 アーメン。
- 司式者 主の平和がいつも皆さんとともに。
- 会衆 またあなたとともに。
- 司式者 互いに平和のあいさつを交わしましょう。
- 一同 主の平和。

平和の賛歌 アニウス・デイ

Kyriale XVI参照
詞・曲 CBCJ



世のつみを取り除くかみの小ひつじ、いつくしみをわたしたちに。



世の罪を取り除くかみの小ひつじ、いつくしみをわたしたちに。



世のつみを取り除くかみの小ひつじ、へい和をわたしたちに。

司式者 世の罪を取り除く神の小羊。神の小羊の食卓に招かれた人は幸い。

会衆 主よ、わたしはあなたをお迎えするにふさわしい者ではありません。おことばをいただくだけで救われます。

聖体拝領

(聖体拝領ができるのは、カトリック信者の方に限られます。カトリック信者以外で司祭の祝福を希望される方は、司祭の前で頭をお下げください。)

拝領の歌 〈アドロ・テ・デヴォテ：聖トマス・アクィナスによる聖体賛歌〉

Adoro te devote, latens Deitas,
quae sub his figuris vere latitas;
tibi se cor meum totum subiicit,
quia te contemplans, totum deficit.

Visus, tactus, gustus in te fallitur,
sed auditu solo tuto creditur:
credo quidquid dixit Dei Filius;
nihil hoc verbo veritatis verius.

In cruce latebat sola deitas,
at hic latet simul et humanitas:
ambo tamen credens atque confitens,
peto quod petivit latro poenitens.

Plagas, sicut Thomas, non intueor,
Deum tamen meum te confiteor;
fac me tibi semper magis credere,
in te spem habere, te diligere.

O memoriale mortis Domini!,
panis vivus, vitam praestans homini,
praesta meae menti de te vivere,
et te illi semper dulce sapere.

Pie pellicane, Iesu Domine,
me immundum munda tuo sanguine,
cuius una stilla salvum facere
totum mundum quit ab omni scelere.

Iesu, quem velatum nunc aspicio,
oro fiat illud, quod tam sitio:
ut te revelata cernens facie,
visu sim beatus tuae gloriae.

Amen.

パンとぶどう酒の形のもとに、隠れています神よ、つつしんであなたを礼拝します。あなたを見つめながらも全く見通す力のない私は、心の全てをあなたに委ねます。

今ここに、見るところ、触れるところ、味わうところでは、あなたを認めることができません。ただ、聞くところによってのみ確信します。神の御子の言われたことは、何事であれ信じます。この真理の言葉にまさるまことは、世にはないからです。

十字架の上では神の本性だけが隠されていましたが、ここではその人性も隠されています。主にある二つの本性を信じ、それを宣言し、悔い改めた盗賊の乞い願ったことを私も願います。

私はトマスのように御傷を見なくとも、あなたが私の主であることを宣言します。私が、あなたをますます深く信じ、あなたに希望し、あなたを愛するようにして下さい。

主のご死去の記念として、人に命を与える生きたパン、わたしの心をあなたによって生かし、甘美なあなたを常に味わわせてください。

御血のひとつずつだけで、世の全ての罪を償うことのできる主イエス、願わくは汚れた私を、御血をもって清めてください。

今隠れていますイエス、渇き望むものを与えてください。覆いを取られた、あなたの顔を見出し、あなたの栄光を見る幸いな者となりますように。

拝領の歌 谷川の水を求めて(典礼聖歌 144)

♩=58 くらい

The musical score is written on three staves in G major (one flat) and common time. The first staff begins with a tempo marking of ♩=58 くらい. The lyrics are written below the notes. The third staff ends with a double bar line and a 2/4 time signature change.

た に が わ の み ず を も と め て
あ え ぎ さ ま よ う し か の よ う に
か み よ わ た し は あ な た を し た う

わたしの心はあなたをもとめ 神のいのちをあこがれる
わたしが行ってみ前にいたり み顔をあげる日はいつか
わたしは日夜 神を問われて 明け暮れ涙を食物とする (答唱)

思い起こせば心はたかなる よろこび祝う人々のむれ
かんしゃと賛美の歌声の中を わたしはみ前にすすみでた (答唱)

わたしの心はなぜうちしずみ 思い乱してなげくのか
すくいの神に希望をいだき かつてのようにみ前にすすみ
さんびの祭りをささげよう わたしの救い わたしのかみに (答唱)

拝領祈願

司式者 祈りましょう。主なる神よ、聖ホセマリアを記念し、とうとい秘跡に養われて祈ります。神の子としての精神が強められ、み旨を忠実に果たし、喜びのうちに聖性への道を歩むことができますように。わたしたちの主キリストによって。

O Lord our God, may the mysteries we have received in this celebration of Saint Josemaría, strengthen in us the spirit of adoption as your children, so that, in faithful adherence to your will, we may advance joyfully along the path of holiness. We ask this through Christ our Lord. Amen.

会衆 アーメン。

* あいさつとお知らせ

閉祭

司式者 主は皆さんとともに。

会衆 またあなたとともに。

司式者 全能の神、父と子と聖霊の祝福が皆さんの上にありますように。

会衆 アーメン。

司式者 聖ホセマリア・エスクリバー記念ミサを終わります。行きましょう、主の平和のうちに。

会衆 神に感謝。

* 聖遺物による祝福

聖母賛歌 サルヴェ・レジナ(カトリック聖歌 543) (楽譜は次頁)

閉祭の歌 われ神をほめ(カトリック聖歌 12) (楽譜は最後の頁)

サルヴェ・レジナ (カトリック聖歌 543)



Sal-ve Re-gí-na, * Ma-ter mi-se-ri-cór-di-æ,
 サ^ル ヲ^レ ジ^ナ マ^テ ル^ミ ゼ^リ コ^ル テ^イ エ
 め^で た^し 元^后、 あ^わ れ^み 深^い お^ん 母



Vi-ta, dul-cé-do et spes no-stra, sal-ve.
 ヲ^イ タ^ド ウ^ル チ^エ ド エ^ト ス^ペ ス^ノ ス^{トラ} サ^ル ヲ^レ エ
 私^た ち^の い^の ち、 な^ぐ さ^め、 望^み な^る お^方、 め^で た^し。



Ad te cla-má-mus éx-su-les fí-li-i He-vaæ.
 ア^ド テ^ラ マ^ム エ^ス ス^レ ヲ^イ リ^イ ヘ^ッ エ
 私^た ち、 さ^す ら^い の エ^ワ の 子^は あ^な た^に 向^か っ^て 呼^ば わ^り、



Ad te su-spi-rá-mus ge-mén-tes et flen-tes
 ア^ド テ^ス ス^ピ ラ^ム ヲ^レ エ^メ ヲ^レ エ^ト ヲ^レ エ^テ ス
 あ^な た^に 向^か っ^て 泣^き さ^け び^ま す、



in hac la-crí-má-rum val-le. E-ja er-go,
 イ^ン ハ^ッ ラ^ッ リ^マ ル^ム ヲ^レ エ^ヤ エ^ル ゴ
 こ^の 涙^の 谷^で。 い^ざ、



ad-vo-cá-ta no-stra, il-los tu-os mi-se-ri-
 ア^ド ヲ^カ タ^ノ ス^{トラ} イ^ノ ロ^ス ト^ウ オ^ス ミ^ゼ リ
 私^た ち^の 代^願 者^よ、 あ^わ れ^み の お^ん 目^で



cór- des ó- cu- los ad nos con- vér- te.
 コル デス オ ク ロ ス ア ド ノ ス コ ッ ッ エ ル テ
 私 たち を か え り み て 下 さ い。



Et Je- sum, be- ne- dí- ctum fru- ctum ven- tris
 エ ト イ エ ズ ム ベ ネ テ イ ク ト ウ ム フ ル ク ト ウ ム ッ エ ン ト リ ス
 ま た ご 胎 内 の 祝 せ ら れ た お ん 子 イ エ ズ ス を



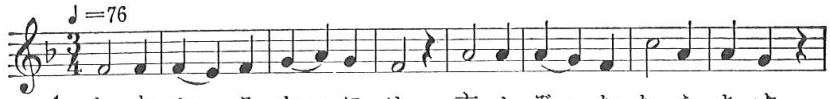
tu- i no- bis post hoc e- xí- li- um o- stén- de.
 ト ウ イ ノ ビ ス ポ ス ト ホ ク エ ク ス イ リ ウ ム オ ス テ ン デ
 こ の さ す ら い の 終 わ っ た 後 私 たち に お 示 し 下 さ い。



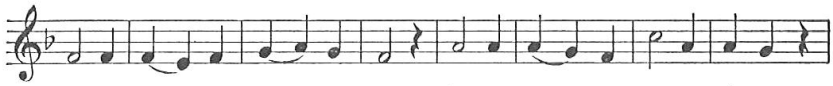
O cle- mens: O pi- a:
 オ ー ッ レ メ ン ス オ ー ピ ア
 あ あ 寛 容、 あ あ 仁 慈、



O dul- cis Vir- go Ma- rí- a.
 オ ー ド ウ ル チ ス ッ イ ル ゴ マ リ ア
 あ あ 甘 美 な る 処 女 マ リ ア。



1. われか—みを—ほめ 主とぞ—たたまえます
 2. せいな—るせいなる せいな—るみかみよ
 3. とうと—きみでしら ほまれ—のしょうせいし
 4. ちちみ—こみ—たま さんい—にましませど
 5. きよき—をも—とめ あしき—をしりぞけ
 6. てんに—おい—ては みかみ—にえいこう



とわの—みち—ちを あめつ—ちととも
 よろず—のた—みを ひきい—たもうわが主
 いのち—ささ—げし すべて—のじゅんきょうし
 ひとり—のみ—かみ よをす—くわんため
 主はま—たき—たり このよ—さばきたもう
 ちにあ—るわ—れら なにを—ほこるべき



みつか—い—うと—うケルビ—ム—の—うた
 あめつ—ち—にみ—つと—わの—さ—か—えと
 かみの—み—ま—えに—きそ—い—う—た—え—ば
 おとめ—に—や—どり—くるし—み—し—の—び
 主よ—お—ん—ち—も—て—あ—が—な—い—た—ま—い
 あわれ—み—た—ま—え—主—に—よ—り—た—の—む



セラフ—ム—の—う—た—た—ゆ—る—ひ—ま—な—し
 さけ—ぶ—そ—の—こ—え—み—そ—ら—に—と—よ—む
 はか—つ—つ—き—せ—ぬ—み—い—つ—か—が—や—く
 死と—つ—み—に—か—ち—て—ん—に—の—ぼ—り—ぬ
 みく—に—の—う—ち—に—い—れ—た—ま—え—か—し
 われ—ら—の—の—ぞ—み—と—わ—に—か—わ—ら—じ

本日はご参列いただき、ありがとうございます
た。

さらに知りたい方は、次のサイトをご覧ください。
(QRコードからもアクセスできます)

聖ホセマリアについて www.josemariaescriva.org



聖ホセマリアの著作 www.escriva.org/ja/



オプス・デイについて www.opusdei.org



本日のミサ及び冊子に関する問い合わせは、
下記のオプス・デイ広報室までお寄せください。

オプス・デイ広報室

兵庫県芦屋市兵庫県芦屋市大榭町 1-11

電話 0797-35-1658

メール info.jp@opusdei.org

